

年 組 名前:

# 「日本で最も過酷」 山岳レース挑戦



赤池 悠・武田 寛明・森 航平(富士北麓)  
飯野 稔平(大月上野原) 森 航平(都留)

武末さんは長崎県対馬市出身。小学生の頃から体を動かすのが好きで、陸上やバスケットボールに打ち込んだ。駅伝やマラソンなど平地で走ることに主に取り組んできたが、同郷で島育ちの後輩自衛官に誘われたことがきっかけで、6年ほど前から山を走るトレイルランにも挑むようになった。

全国各地の山岳レースに出場するようになり、「自然の中を走るのは気持ちが良い。山の上からの眺望を見た時の感動はたまらない」として

富士吉田の自衛官・武末さん

富士吉田市浅間2丁目の自衛官武末伸也さん(40)が、日本海から太平洋までの約415キロを縦断する山岳レース「トランスジャパンアルプスレース」(TJAR)に出場する。「日本一過酷な山岳レース」と呼ばれ、出場枠はわずか30人の狭き門。武末さんは「楽しみながら、完走を目指したい」と日々の訓練に励んでいる。  
(赤池悠)



TJARに向けて、トレーニングに励む武末伸也さん  
—富士吉田市内

## 「自分との戦い楽しむ」

どん魅力にはまっていった武末さん。TJARの優勝者の思いやエピソードが描かれた書籍を読み、大会への出場を望むようになった。

TJARは、北・中央・南の三つのアルプスを越えて、富山・富山湾から静岡・駿河湾まで野営しながら縦走する。8日以内に総距離約415キロ、累計標高差2万7千以上の走破を目指す日本で最も過酷と称されるレース。前回大会(2022年)にもエントリーを試みたが、前年に膝をけがして断念した。2年越しの思いを胸に、書類審査や実地での選考会などで、体力だけでなく気象の知識やキャンプの技術も問われる厳しい試験を経て、念願の初挑戦がかなった。

武末さんには夢がある。TJARを完走して、いつか故郷・対馬市で育つ子どもたちに「夢を追いかけて続けよう」と天舞台につながるという思いを伝えること。レースは11日から始まる。武末さんは「極限状態に追込まれる瞬間の自分との戦いを楽しみたい」と意気込んでいる。

(2024年8月7日付 山梨日日新聞 18面)

問1 富士吉田市の武末さんが出場するレース名を答えてください。

.....

問2 次の文章の①から⑩に当てはまる言葉や数字を、答えてください。

『このレースは、北・①・南の三つの②を越えて、富山・③から静岡・④まで、⑤しながら⑥します。

⑦以内に総距離約⑧キロ、累計標高差⑨の走破を目指す日本で最も⑩と称されるレースです』

- ① ..... ② ..... ③ ..... ④ ..... ⑤ .....
- ⑥ ..... ⑦ ..... ⑧ ..... ⑨ ..... ⑩ .....